

JENDL-1 積分テストW.G. 第2回会合議事録

日時 1976年5月10日(月), 1.30 pm~5.30 pm

場所 原研本部第31会議室

出席者 菊池, 長谷川, 中川, 成田(原研), 亀井, 飯島(NAIG), 山本, 伊東(日立), 松延(住友), 大竹(PNC), 五十嵐(オブザーバー)

1 JENDL-1の現状と問題点 (中川)

- 大体終了したが以下の核種には問題がある。

Cu : natural が未完

Mo : "

²³²Th : 共鳴領域のスムーズ断面積の点が多すぎる。

⁷Li : 未完

Si : 未完で目途がたえない。今回の積分テストには無理か。

Fe : natural が未完

Cr : 共鳴領域が未完

Ni : 未完。5月一杯には終りそう。

- RESENDの問題点

- ²³⁸Uのグラフに異常がある。パラメータは正常なのでコードのエラーと思われるので調べている。

- 非分離領域のPorter Thomas fluctuationの計算に誤差が多いので修正する。

2 群定数処理コードの問題点

- ETOXのcross check

- ETOX-IIによるとCRCとMAPIのVersionでは一致するが, 分離共鳴領域と非分離共鳴の接続群に不一致がある。

- PROF-GROUCH G-IIとMAPIのETOX-IIは, 無限希釈断面積では良く一致した。

- self-shielding factorを調べる為, 0°Kにおける値をETOX-IIと

PROF-GROUCH-G-IIで比較する事にする。なお、この作業はMAPI
代表が欠席の為、後日電話で確認された。

3 Doppler解析炉心の決定

- 山本氏より以下の炉心が提案され、同意された。

FCA II-4S, III-1, V-1, V-2

SEFOR

ZPR -3 -48

4 Pu同位体効果

- 亀井氏より前回提案されたPu同位体のサンプル・ワークの実験解析が同意された。対象は

ZPPR-2

FCA V-1, V-2, VI-1

MZA

MZB

5 JENDL-1に含まれない核種の取扱い

- 亀井氏の調査により

SEFOR : Be

ZPR-3-59 : Pb

MZA : Ag

その他不純物 : Ga, Ti

いずれも必要に応じてENDF/B-4を処理する方針となった。

6 当面のスケジュール

ETOXの cross check	5月20日まで	MAPI
f-table作成と Library 作成	6月一杯	JAERI, MAPI
PROF-GROUCH G-IIの処理	6月一杯	JAERI
FCA炉心の検討と入力作成	6月中旬まで	JAERI, NAIG